5−1

人権尊重・非核平和

人権に対する正しい知識を習得する

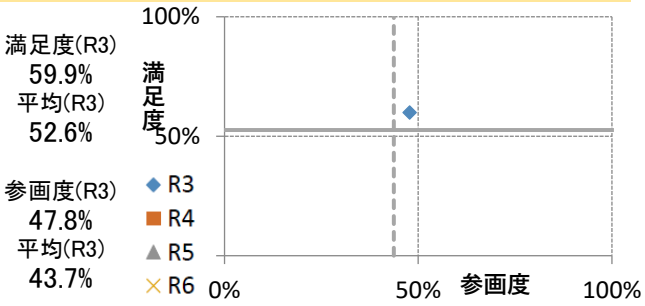
伊賀流自治の視点

【主担当部局】　人権生活環境部

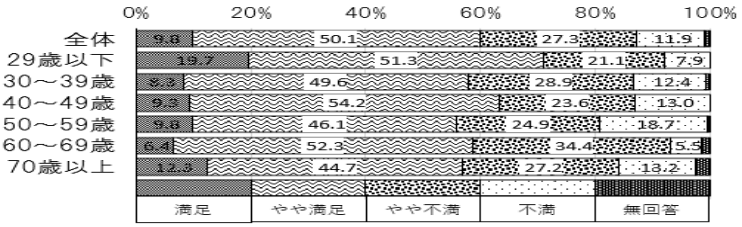
・市民との協働による啓発事業を推進します。
・人権侵害の発見や防止、人権に関する相談、人権侵害に対する救済・保護支援を進めます。
・あらゆる場面への女性の登用を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組みます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021（R3）年度の事務事業	KPI（成果指標）						
1	人権啓発 市民一人ひとりが、さまざまな人権問題を自分自身の課題とし、その解決に向けて努力できるよう、人権啓発など、あらゆる場・機会を通して人権啓発活動や人権同和教育を推進します。また、地域における市民主体の人権同和教育推進団体や地域での人権教育リーダーの育成をめざします。 新型コロナウイルス感染症の拡大における、コロナ差別（誹謗中傷）への対応について、正しい知識や情報を提供し、人権意識のさらなる高揚を図ります。	○人権啓発推進経費 ・人権啓発地区草の根運動推進会議に関する事業（人権地区別懇談会事業） ・差別をなくす強調月間（11/11～12/10）事業 ・部落解放・人権大学講座の開催 ・「ひゅーまんフェスタ2021」の開催 ・性的マイノリティ支援	成果指標	参加者の意識向上度					
			成果指標の説明	人権講演会等参加者アンケートにおいて、今後も開催すべきかという設問に対し、「積極的に行うべきである」と答えた人の割合					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（%）	48.9	59.9				58.9
2	非核平和 幅広い年代の市民が集い、平和に関心を持つために、戦争体験の伝承を含めた総合的な平和学習の機会を提供します。 また、児童生徒への平和への意識向上に向けて、市内小・中学校と情報共有を行い平和学習につなげます。	○非核平和都市推進経費 ・被爆体験講話拝聴による学習会開催 ・市内中学生を対象とする平和に関する意識調査の実施 ・「原爆の子の像」への折り鶴献納	成果指標	中学3年生の平和への貢献度					
			成果指標の説明	中学生広島派遣の代替として実施した中学生アンケート、または、中学生広島派遣事業に参加した中学生へのアンケートにおける、平和な世界をつくるための取り組みへの意欲（1. したい　2. できればしたい）					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（%）	74.7	57.3				83.0
3	男女共同参画 男女共同参画基本計画に掲げる3つの目標「あらゆる分野における男女共同参画の推進」「共同参画に関する意識の普及と教育推進」「ワーク・ライフ・バランス（WLB）の実現」の達成に向け、あらゆる場面での政策決定の場への女性の登用促進、及びこれを進める指導者の育成、男女共同参画の啓発や学習機会の推進、DV防止の取り組みや女性の相談窓口の開設、企業への働き方改革の推進や「ハタラキカタ応援宣言」企業の拡大に努めます。	○男女共同参画推進経費 ・男女共同参画フォーラム「いきいき未来いが」の開催 ・イクボス講座の開催 ・女性防災リーダー連続講座の開催	成果指標	女性登用率					
			成果指標の説明	市が設置する審議会・委員会の女性登用率					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（%）	23.4	24.9				30.0
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値
			実績（　）						

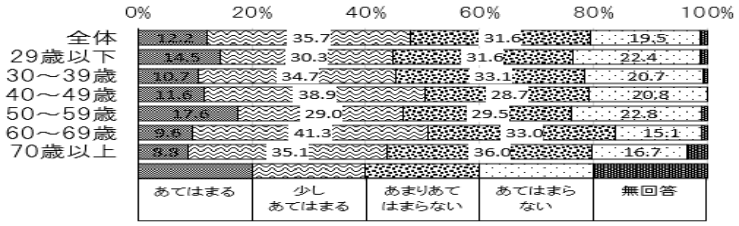
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R3)



参画度(R3)



傾向	・参画度は、全世代共通で低い傾向にある。 ・29歳以下の若年層の満足度が比較的高い。

【CHECK②】		効果検証	【ACTION】 事務事業の改善案	【事業の進捗】 取り組み状況
1	効果が出ている点	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまでの規模や形式による事業開催が困難な状況が続く中、インターネットを活用した形式を試験的に導入することにより、新しい生活様式への転換やDXの推進に基づく今後の啓発のあり方を検証することができた。	人権地区別懇談会のあり方について、地域での担い手不足や高齢化が進んでいることから、将来的に持続可能な事業とするため、人事担当課と協議しながら、行政職員等の企画運営からの参画について検討していく。	計画通り進めている
	課題	市民の人権意識の高揚に向けて、今後のアフターコロナも見据えた、より効果的な啓発方法を創出することが必要である。		
2	効果が出ている点	「戦争は最大の人権侵害」という考えのもと、次代を担う中学生に非核・平和への思いを自分事として認識を深めてもらうとともに、戦争の記憶を引き継いでいくことの大切さを伝えることができた。	戦争の悲惨さを忘れないために、市内小中学校と連携し、児童生徒を対象とした「知る・繋ぐ・引き継ぐ」事業に引き続き取り組む。	計画通り進めている
	課題	戦争体験者が年々減少する中、戦争の悲惨さと平和の尊さを将来世代へ伝承していくための啓発のあり方を検討する。		
3	効果が出ている点	性別に関わりなく対等な立場で認め合う男女共同参画社会の実現に向けて、行政、企業、関係団体等の協働により開催した各事業等を通じて積極的に発信することができた。	地域や団体、職場等における女性の積極的な参画を促進するために、男性に対する意識改革を図る事業を検討する。	計画通り進めている
	課題	市民意識調査の結果からも、依然固定的な性別役割分担の意識が根強いという実態があることから、男女共同参画の意識を定着させていくため、継続的に事業を展開していく必要がある。		
4				

5-2

同和問題　部落差別をなくす

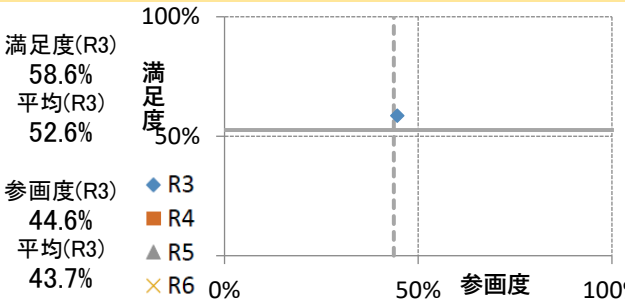
伊賀流自治の視点

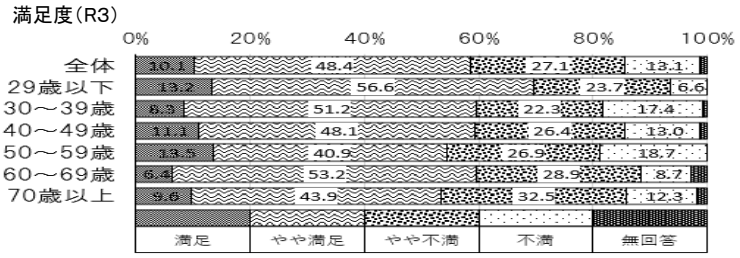
【主担当部局】　人権生活環境部

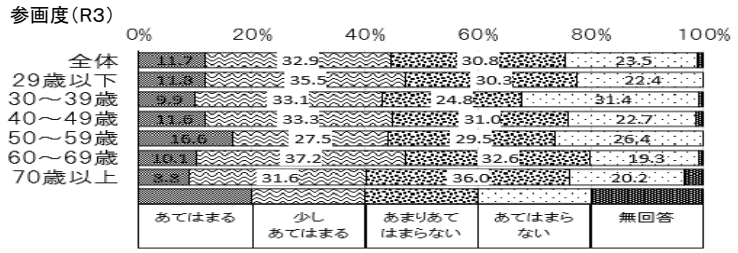
・部落問題の解決に向けて、隣保館における各種相談業務を分析し、課題を把握するなかで必要な施策を立案します。さらに残された課題を市民と共有します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021（R3）年度の事務事業	KPI（成果指標）						
1	同和施策 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、部落差別を受けている地域の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを体系的に整理し、実施します。	【経常経費】 同和行政事務管理経費 　地区内の所管公有地の草刈業務委託、部落差別解消に向けた関係団体への研修会出席のための助成金など 同和施策推進計画事務経費 　同和施策審議会　委員報酬等 福祉資金貸付事業 　貸付金事業は回収のみ 【政策経費】 住宅新築資金等貸付事業特別会計 　貸付金事業は回収のみ 同和施策推進計画策定事業 　伊賀市隣保館等ニーズ調査　相談分析業務委託 共同浴場解体事業 　解体工事自体、R4年度への繰越事業となる	成果指標	参加者の意識向上度					
			成果指標の説明	隣保館・児童館・教育集会所の同和問題研修会アンケートの理解度「たいへん深まった」と答えた人の割合					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（%）	62.7	60.19				72.7
2	隣保館・児童館・教育集会所 隣保館は、人権啓発の拠点としての人権同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施し、地域のコミュニティセンターとして住民のニーズに応じた自立支援を図ります。 児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。 教育集会所では、部落差別による教育的不利な環境におかれている児童生徒の学習機会を確保し、自尊感情の醸成や自己実現を図ることで、将来展望を持てるよう学力保障に努めます。また、生涯学習として人権同和教育推進活動の充実を図り、個別の人権課題解決に向けた取り組みを市民相互で行います。	【経常経費】 老人憩いの家管理運営事業 各隣保館管理経費 　新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金事業（R3.9月補正） 児童館管理経費 【政策経費】 各隣保館事業経費（福祉交流事業含む） 児童館事業経費 しろなみ児童館施設改修事業 まえがわ児童館施設改修事業（まえがわ教育集会所・青少年センター含む） ＋教育集会所事業（生涯学習課）　地区学交流会等 　8月　中学生、2月　小学生	成果指標	年間相談 延件数					
			成果指標の説明	生活福祉・教育・子育て・就労等の年間相談件数					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（人）	3,149	3,560				3,100
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値
			実績（　）						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値
			実績（　）						

まちづくりアンケート調査結果







傾向
・満足度はやや高く、参画度はやや低い。 ・29歳以下の満足度が高い。 ・70歳以上と、30歳以上39歳以下と、50歳以上59歳以下の参画度が低い。(新型コロナの影響もあった。)

【CHECK②】		効果検証	【ACTION】 事務事業の改善案	【事業の進捗】 取り組み状況
1	効果が出ている点	伊賀市生活館条例の一部改正を行い、公共施設の整理統合ができた。(利用施設の改修・不要施設の解体) 八幡町駐車場は、所管を全て建設部・住宅課での所管でR4年度をスタート。 貸付金の償還については、一定の成果が出せた。(収納率　2%～4%アップの予定)	第4次計画において、従前の生活実態調査を実施していないことによる計画策定への影響。 第4次計画における、単年度事業の全庁関係各課の評価チェック項目数を削減する。 FM推進会議等の計画に基づき条例等の整備ができたので、財政課と協議の上、計画的な施設解体・撤去を実施。跡地については、地元自治協・自治会・運動団体等と協議し、跡地については普通財産化と売却等への理解・承認が必要。	やや遅れている
	課題	第4次伊賀市部落差別解消(同和施策)推進計画を策定する。 国への償還が完了することに伴い、基金条例の廃止、住宅新築資金等特別会計を終了し、一般会計で貸付金の早期回収を促進する。(R5歳入からの繰上充用は行わない予定。)		
2	効果が出ている点	隣保館等ニーズ調査により、隣保館の強みと弱みを理解し、今後の事業に活かす。 R3新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金で、各館のDXインフラが整備できた。	隣保館職員の庁内外の研修会・学習会への積極的参加の推進、所属施設におけるOJTの更なる推進。(職員一人ひとりの資質・能力の向上を図る。)これには、会計年度任用職員も含めるものとする。 隣保事業士の資格取得を目指す。	計画通り進めている
	課題	ニーズ調査結果をもとに、各隣保館等施設ごとの課題を明確にし、アフター・コロナの事業を展開する。 老人憩いの家等の周辺関係施設の必要性の検証。 人権政策課・支所の啓発・研修事業と共に、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向け、効果的な人権啓発や人権学習等をDXを活用して行う検討を行う。 隣保館の総合相談事業の更なる充実と、伴走型支援事業の充実及び、周辺地域をも巻き込んだ事業の展開と利用(理解)促進。		
3				
4				

5-3

学校教育

子どもたちが、未来に夢や希望を持てる

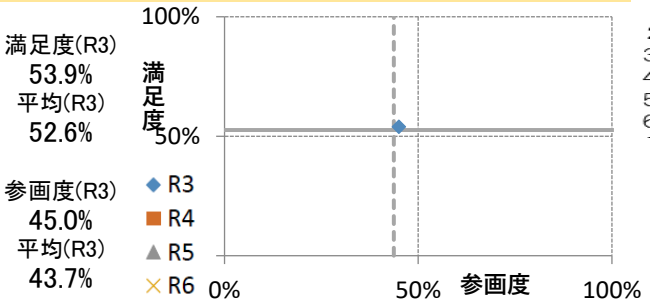
伊賀流自治の視点

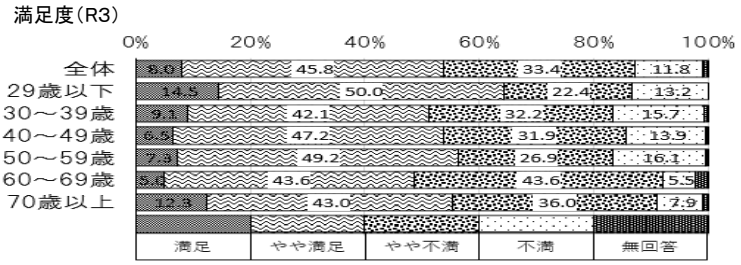
【主担当部局】　教育委員会

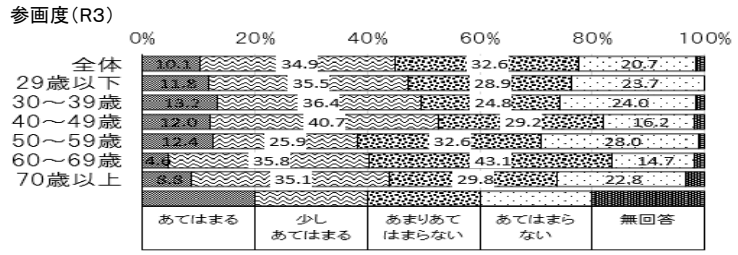
・教育委員会は、伊賀市教育大綱、伊賀市教育方針、伊賀市人権同和教育基本方針に基づき、子どもたちが個性を伸ばし、夢を追い求められるよう、一人ひとりが確かな人生観を持ち、心豊かで健やかに成長する教育をめざします。
・各学校・幼稚園は、教育を取り巻く環境が激しく変化するなかで、学校・幼稚園教育への要請に対して、迅速かつ誠実に対応します。
・学校・幼稚園の情報を分かりやすく提供し、学校・幼稚園の課題を地域全体で共有できるよう努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
	基本事業	2021（R3）年度の事務事業	KPI（成果指標）						
1	学校マニフェスト 確かな学力の保障、人権・同和教育の充実、キャリア教育の推進を3本柱に、子どもたちの自立をめざすために取り組むべき努力目標、具体的な取り組み内容等を学校（園）マニフェスト として作成し、保護者や地域の方に公表し、評価を受け、改善を行い、学校（園）経営の質の向上に努め、保護者・地域に信頼される学校・幼稚園づくりをめざします。 確かな学力の保障については、児童生徒1人1台のタブレット端末等のICT機器を有効に活用し、一人ひとりの個性に応じた教育を一層推進し、学力の向上に努めます。	○地域とともに学校マニフェスト推進事業 ・学校経営品質向上事業 ○学力向上推進事業 ○人権同和教育推進事業 ○キャリア教育推進事業 ○英語指導助手招へい経費 ○伊賀市教育研究センター管理運営経費 ○学校管理用備品整備事業 他	成果指標	学校改善に努めていると感じる保護者の割合						
			成果指標の説明	各学校が実施する学校評価アンケート（保護者用）において「学校は、保護者や地域（学校運営協議会委員等）の意見を取り入れて学校改善に努めている。」（12月末時点）と回答した割合						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）	
			実績（%）	90	88.9				90	
			成果指標	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合						
			成果指標の説明	全国学力・学習状況調査（児童生徒質問用紙）において「将来の夢や目標を持っていますか。」（4月時点）に対して肯定的に回答した小学6年生と中学3年生の割合						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）	
			実績（%）	76.8	74.2				80	
2	児童生徒の支援 障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や必要な支援を行います。また、こども発達支援センター、いが児童発達支援センターと連携しながら、適切な支援や望ましい就学指導をめざします。さらに、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、学校・学級に応じた教育支援員の配置に努めます。「伊賀市いじめ防止基本方針」「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを正確かつ積極的に認知し、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携していじめ問題に対応します。また、児童生徒が情報に対して正しい判断力を持ち、安全かつ有効に活用できるよう、情報モラル教育を進めます。 いじめやネットトラブル等の問題行動を早期に把握し、関係機関との連携及び教職員の共通理解を図り、指導体制を確立して指導にあたります。また、教育相談等を通じて共感的理解に努め、児童生徒の持つ生活課題を正しく把握し、その早期解決に努めます。	○児童生徒支援事業 ○不登校児童生徒支援事業 ○外国人児童生徒支援事業 ○特別支援教育充実事業 ○生徒指導推進事業 ○子ども支援ネットワーク・アクション事業 ○部活動指導員配置促進事業 ○健康管理経費 ○就学奨励費 他	成果指標	個別の教育支援計画・指導計画の作成割合						
			成果指標の説明	学校教育課による各学校への調査結果（12月末時点）の割合						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）	
			実績（%）	100	100				100	
			成果指標	情報モラル学習を実施する学校の割合						
			成果指標の説明	学校教育課による各学校への調査結果（12月末時点）の割合						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）	
			実績（%）	100	100				100	
3			成果指標							
			成果指標の説明							
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値	
			実績（ ）							
4			成果指標							
			成果指標の説明							
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値	
			実績（ ）							

まちづくりアンケート調査結果







傾向	・平均と比べ、満足度、参画度ともにやや高い。 ・29歳以下の満足度が高い。 ・50歳以上の参画度が低い。

	【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
	効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	・学力向上、人権・同和教育の充実、キャリア教育推進を柱に、各学校が学校マニフェストを作成・公表し、児童生徒・保護者等からアンケートによる評価を行い、実践にいかした。 ・学力向上プロジェクト委員会を組織し、みえスタディ・チェックの結果等から学力課題を分析し、各校での授業改善や家庭と連携した家庭学習の取組につなげた。	・各校区の学校支援地域本部と学校運営協議会の取組を両輪とし、課題を解決するため、学校と地域がとともに学校運営に取り組む体制を整えていく。 ・調査結果を分析し、授業改善、安心して学べる環境づくり、保幼小中学校の連携、保護者・地域との連携に取り組む。 ・一人一台タブレット端末の効果的な活用について研修を深め、実践を積み重ねていく。	計画通り進めている
	課題	・学校運営協議会を中心とした、コミュニティ・スクールの推進をスムーズにスタートさせるよう努めなければならない。 ・令和3年度は全国学力・学習状況調査は、全国平均より小学校は「やや上回る」、中学校は「やや下回る」という結果であることから授業改善等の学力向上の取組が課題である。 ・ICT機器を活用し、個別最適化をめざした教育の推進が課題である。		
2	効果が出ている点	・学校に教育支援員、特別教育支援員を配置し、児童生徒のニーズにあった支援を行う体制をつくった ・伊賀市いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携して対応した。また、いじめ問題対策連絡協議会を年2回開催し、関係機関と諸課題を共有し、効果的な対策について協議した。	・包括的生徒指導モデル校推進事業の成果を踏まえ、他校に取組を広げていく。県SSWを講師に招き、Q-U調査の結果分析や、それを踏まえた実践について研修を行う。 ・各校の特別支援教育コーディネーターを対象とした研修を充実させ、通常学級に在籍する特別な支援を必要としている児童生徒への支援を推進する。	計画通り進めている
	課題	・生徒指導上の課題に対する未然防止・早期解決にあたる。 ・特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、通常学級における児童生徒のニーズにあった支援を推進していく必要がある。		
3				
4				

5-4

教育環境

子どもたちが、安心して学べる

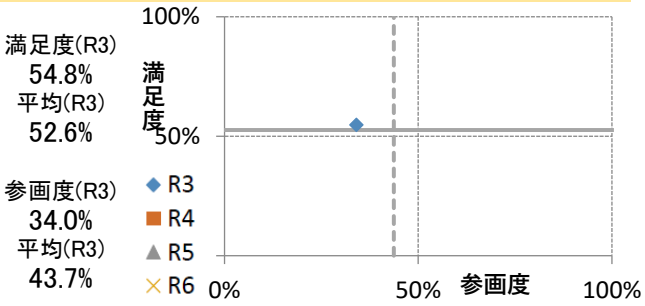
伊賀流自治の視点

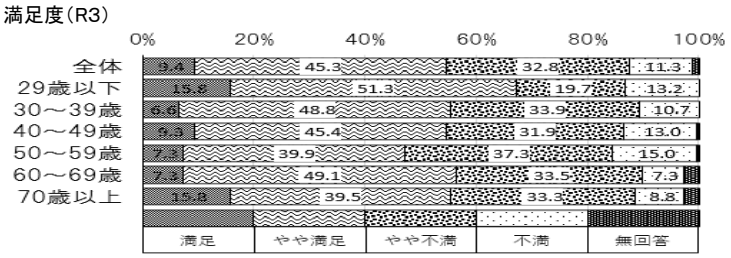
【主担当部局】 教育委員会

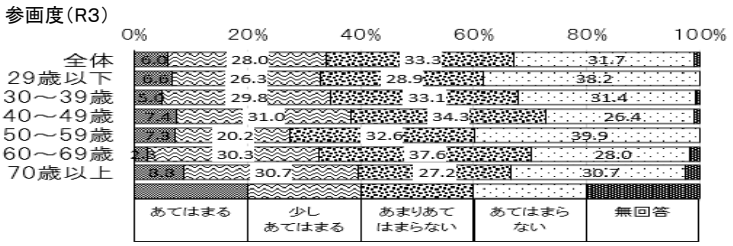
・学校統廃合などを見据え、計画的に学校施設の整備を進めます。
・教室やトイレなどの学習環境の維持向上に努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021（R3）年度の事務事業	KPI（成果指標）						
1	校区再編 適正な児童生徒数での学校運営を行うため、校区再編計画を策定した地区の該当校の統合を推進します。また、将来の児童生徒数の減少を見据え、子ども達にとって望ましい教育環境の検討を進めます。	○奨学金等支給事業 ・高校生・大学生等に奨学金を支給。 ○情報化教育推進経費 ・GIGAスクール構想への対応等 ○スクールバス運転管理及び維持経費 ・直営、委託等によるスクールバスの運行 ○遠距離通学者等通学経費 ・遠距離通学児童生徒の通学費補助 ○教材・教具整備費 ・図書、教材備品等の購入 ○新型感染症対策事業 ・補助金を活用した消耗品、備品購入等 ○学校給食管理経費 ・自校方式による給食実施 ○給食センター管理運営経費 ・センター給食の管理運営事業	成果指標	複式学級数					
			成果指標の説明	R2.4月現在、校区再編の計画がある小学校の複式学級数《現在、2地区5校で校区再編を計画しており、R6には統合を完了させる予定であるので、その時点で2地区の複式学級が解消されている。》					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（学級数）	2	2				0
2	学校施設整備 学校施設長寿命化計画に基づき、長寿命化の視点に立った施設・整備の保全を計画的に行います。また、情報教育の推進など時代の変化に伴う課題に対応した機能整備も進めます。 児童・生徒数が少ないスクールバス運行路線については、規模に応じた運行方法などを検討します。 安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、小学校給食のセンター方式への段階的移行に向け、学校・関係事業者との協議を進めます。	○施設維持管理経費 ・学校の保守点検、清掃、修繕 ○施設改修事業 ・学校施設の改修 ○依那古小学校大規模改造事業（繰越） ・上野南小学校開校に向けた大規模改造 ○新型感染症対策事業 ・補助金を活用した空調整備、トイレ改修等 ○緑ヶ丘中学校校舎大規模改造事業 ・老朽化した緑ヶ丘中の大規模改造	成果指標	施設改善率					
			成果指標の説明	学校施設長寿命化計画に掲載している建物数のうち、事業計画に基づき改修などを行った建物の割合					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（累計）
			実績（%）	0	8.8				17.6
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値
			実績（ ）						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値
			実績（ ）						

まちづくりアンケート調査結果







傾向	・50歳以下の子育て世代の満足度、参画度は比較的高いが、50代については他の世代に比べ満足度、参画度ともに低くなる。

【CHECK②】			【ACTION】	【事業の進捗】
	効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	校区再編計画で未実施となっていた依那古、神戸、比自岐小学校の統合について検討協議会を6回開催し、令和5年4月での統合が決定し、それに向けた準備を進めている。	・新たな校区再編計画策定に向けた検討委員会の発足 ・廃校利活用プロジェクト会議による協議及び調整の推進。	計画通り進めている
	課題	既に一定の統合を行った小学校や、伊賀市校区再編計画にない地域の小学校においても、児童数が減少している。 通学方法においても、スクールバスの運行台数が増加し、路線や運航形態も複雑化しており、遠距離通学に係る補助制度にも地域間で格差が生じている。 また、統合により廃校となった施設の管理や利活用が課題である。		
2	効果が出ている点	令和2年度に「伊賀市学校施設長寿命化計画」を策定し、安全性の向上に係る危険除去や統合に係る改修を勘案して実施しており、概ね計画通り実施できている。また、計画に無いものや小修繕についても営繕担当職員を配置することで、迅速に対応できている。（令和4年度には学校施設室が新設されたため、よりスピーディーな対応が可能となる。）	・長寿命化計画における第二次実施計画の策定 ・国県補助金等の財源を確保し、計画を前倒しできるようにする。	計画通り進めている
	課題	時代の変化に伴う課題（統廃合、空調、トイレ、調理室など）や情報教育の推進等、従来の維持修繕ではなく、学習環境の向上や機能充実が必要になる。また、材料費の高騰により事業費の増加が懸念される。		
3				
4				

5-5

生涯学習

生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる

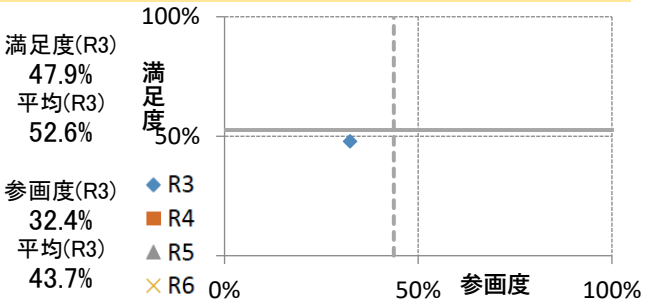
伊賀流自治の視点

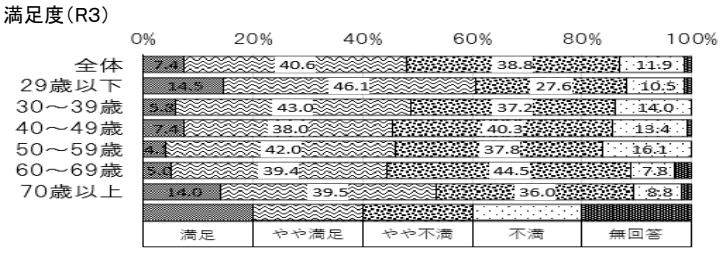
【主担当部局】　教育委員会

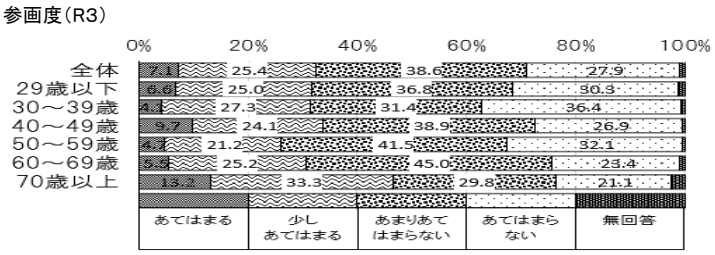
・すべての市民がいつでも・どこでも学べる体制を整え、地域で活躍できる人材を育成します。
・子育てや子どもの健全育成の指針となる「輝け！いがっ子憲章」を推進します。
・図書館においても、郷土愛を育み、情報の拠点・交流の場としての機能を充実するよう努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021（R3）年度の事務事業	KPI（成果指標）						
1	生涯学習 若者の社会参画として成人式の運営、中間層世代の参画を促すための初めての講師サポート事業、まちづくりにおける人材育成を目的にした研修会や講座など市民の学習意欲・社会参画に応じた学習・参画の機会を提供します。 また、各住民自治協議会が特色ある生涯学習活動を行えるよう、関係課や関係機関等と連携し積極的に支援を行います。さらに、地域間の情報共有の場や意見交換会、地区市民センターを利用した出前講座など地域との連携により事業を実施します。	○成人式開催経費 ・成人の自覚を促すなど社会の構成員としての啓発 ○社会教育推進経費 ・社会教育委員会開催及びそこでの調査・検討 ○公民館事業 ・教室や講座、講演会などの開催	成果指標	人材育成講座 参加者数					
			成果指標の説明	初めての講師サポート事業など地域で活動できる人材育成のための講座及び交流会の参加者数					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（人）	274	492				480
2	図書館活動 すべての市民がどこに住んでいても等しく図書館サービスを受けられるよう、図書自動貸出や予約本自動受取等サービスのIT化を進めるとともに、学校図書館、上野点字図書館、歴史・文化等関係施設や、読み聞かせボランティアグループ、関係団体などと連携し、図書館サービスの充実に努めます。さらに、地域資料や地域振興支援等「地域の特性を活かすサービス」、児童・ヤングアダルト・シニア・障がい者・多文化等「利用対象者別サービス」、レファレンス等「資料・情報提供サービス」について、より効率的で専門性の高い図書館サービスを提供します。	○図書館管理経費 ・図書館利用及び読書推進 ○貴重資料デジタル化事業 ・貴重資料のデジタルアーカイブ化による資料の利用促進	成果指標	図書館年間入館者数					
			成果指標の説明	上野図書館の年間入館者数 《目標値は、伊賀市新図書館基本計画（H26.3策定）に記載の新図書館の延床面積3,600㎡をもとに、「伊賀市のにぎわい創出に向けた庁舎移転後の利活用方針について（H28.8.16）」資料として公表した入館者数（97.67人／㎡）×3,600㎡を引用》					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（人）	80,523	62,224				352,000
3	子ども読書活動 家庭、地域、学校、図書館等との連携を図り、子どもが自ら進んで読書に親しめる環境を整えます。また、市内で活動する読み聞かせボランティアグループの育成を行うとともに、読み聞かせボランティアグループへ図書資料等の団体貸出を行い、活動支援を行います。	○図書館管理経費 ・子どもの読書活動推進	成果指標	児童書の年間貸出冊数					
			成果指標の説明	上野図書館ほか分館における児童書の年間貸出冊数					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（冊）	118,710	123,497				145,000
4	青少年健全育成 市民団体等と連携し、「輝け！いがっ子憲章」の周知・啓発を行います。 家庭・学校・地域が一体となり青少年の安全確保と健全育成を目的として、子どもの居場所づくりである放課後子ども教室の実施や、子どもの見守りや相談支援を行う青少年センターの充実を図ります。 また、青少年育成団体の活動を支援し、心身ともに健康で、豊かな未来に希望を持った青少年の育成を推進します。	○青少年健全育成事業 ・青少年育成団体を中心とした青少年健全育成の啓発や事業実施 ○放課後子ども教室推進事業 ・放課後子ども教室の委託等 ○学校支援地域本部推進事業 ・地域力を活用した学習支援等 ○青少年センター運営経費 ・青少年に対する街頭活動や相談活動等の実施	成果指標	体験事業参加者数					
			成果指標の説明	教育委員会及び青少年育成団体が実施する体験教室、子ども教室への参加者数					
				現状値	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2024（R6）	目標値（単年）
			実績（人）	7,360	1,844				7,500

まちづくりアンケート調査結果







傾向	
	・平均と比べ、参画度が低い。 ・29歳以上の満足度が高い。 ・50歳以上59歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】			【ACTION】	【事業の進捗】
	効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	はじめての講師サポート事業など令和2年度は中止した事業を実施することができ、参加者数も増加しました。 令和5年成人式の実施方針を決定し、対象者に周知しました。 生涯学習推進指針策定及び推進などについて、検討の場を持ちました。	・講師サポートやボランティア養成講座、生涯学習支援員の研修開催 ・公表している内容で成人式を実施していくための準備（具体的には、各回の実行委員組織など）	やや遅れている
	課題	地区公民館を令和3年度末で廃止したことに伴う、生涯学習支援員の研修内容を固める必要があります。 成人式開催について、対象者への働きかけを具体化していくことが必要です。		
2	効果が出ている点	市及び市内関係団体が所蔵する古文書などをデジタル化して公開したことで、いつでも、どこでも、だれでも学べる環境を整えることができ、伊賀の歴史文化の魅力を広く発信できた。 小学生を対象に「調べ学習」を実施し、図書館資料の活用の仕方を学ぶ機会ができた。館内においても特集コーナーの設置により対象者別の多様なニーズに対応することができた。 また、市内小中学校へのセット文庫の定期配送等により学校図書室と連携して読書推進体制を整えることができた。 職員が研修会へ参加することでレファレンスサービスの向上に繋げることができた。	・各取り組みのPR活動 ・学校等との連携	計画通り進めている
	課題	各取り組みを広く周知する必要がある。		
3	効果が出ている点	市内で活動する読み聞かせボランティアグループとの連携や図書資料等の団体貸出を行い活動支援を行うことで子どもが自ら進んで読書に親しめる環境を整えることができた。	・読み聞かせボランティアの育成	計画通り進めている
	課題	読み聞かせボランティア数が減少している。		
4	効果が出ている点	青少年育成に携わる団体の支援により、親子のふれあいや子ども達の体験の場を提供してもらうことでこどもの居場所づくりに資することができたと考えています。関係行事等について令和2年度では事業を中止せざるを得ないこともありましたが、令和3年度はほぼ予定どおり実施することができました。また、青少年センターの運営を行うことで子どもの見守り等の活動を行いました。	・令和4年度以降の青少年育成関係団体の体制の具体的検討	計画通り進めている
	課題	青少年育成に携わる団体の支援について検討が必要であると考えています。		